



SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

東証スタンダード:3131

2027年3月期第1四半期 決算説明資料

2026年8月10日

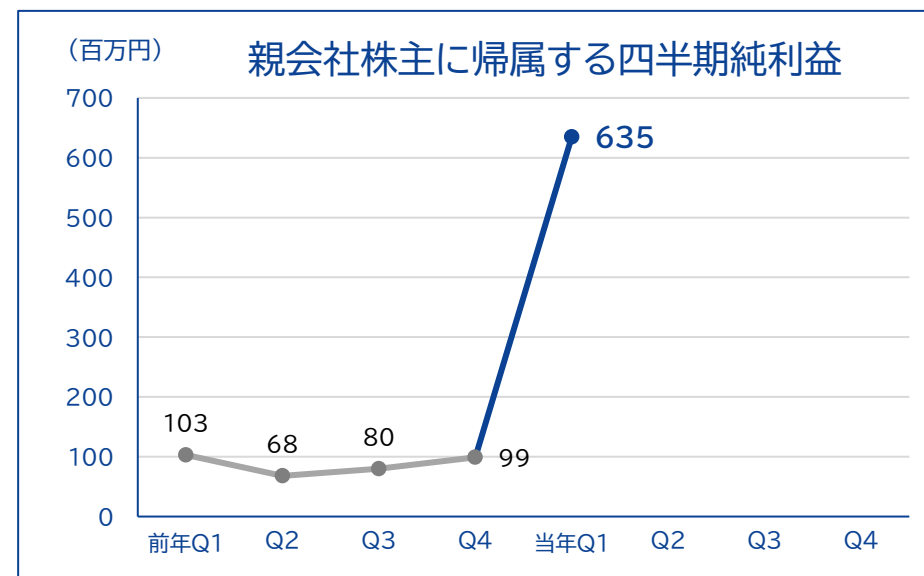
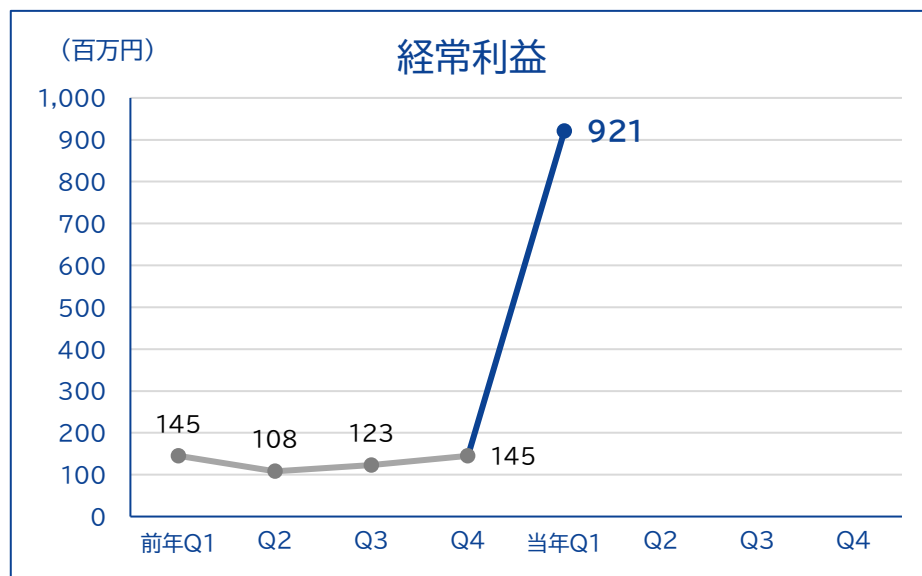
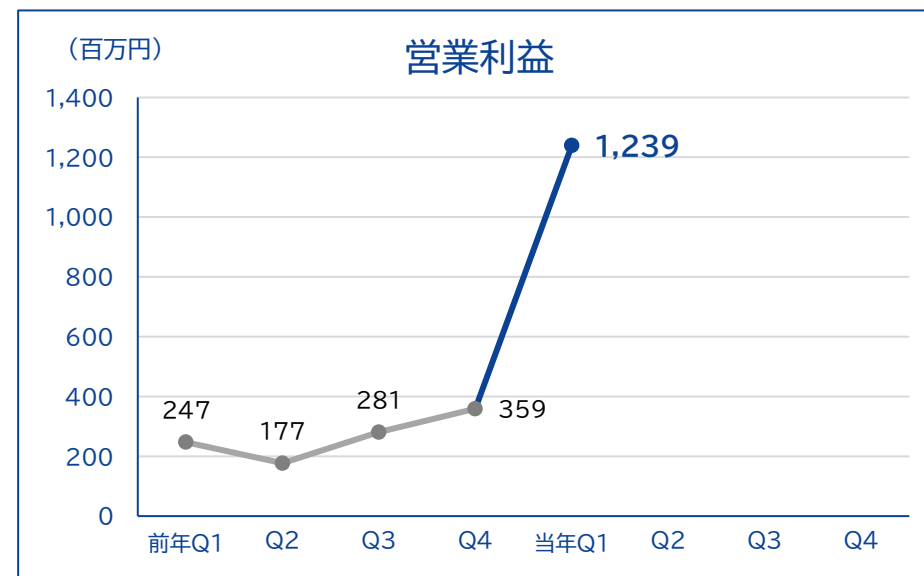
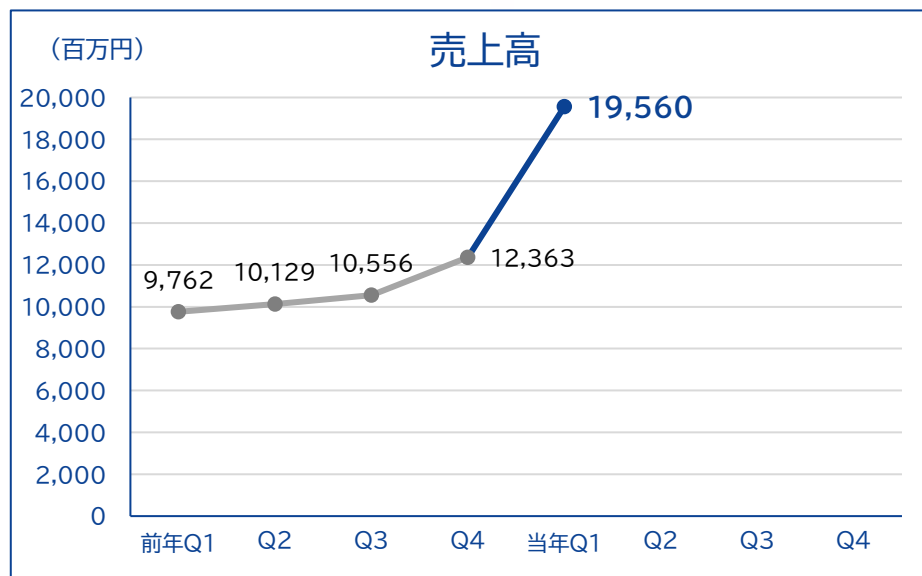
1. 業績サマリ(27年3月期 Q1)

■総括

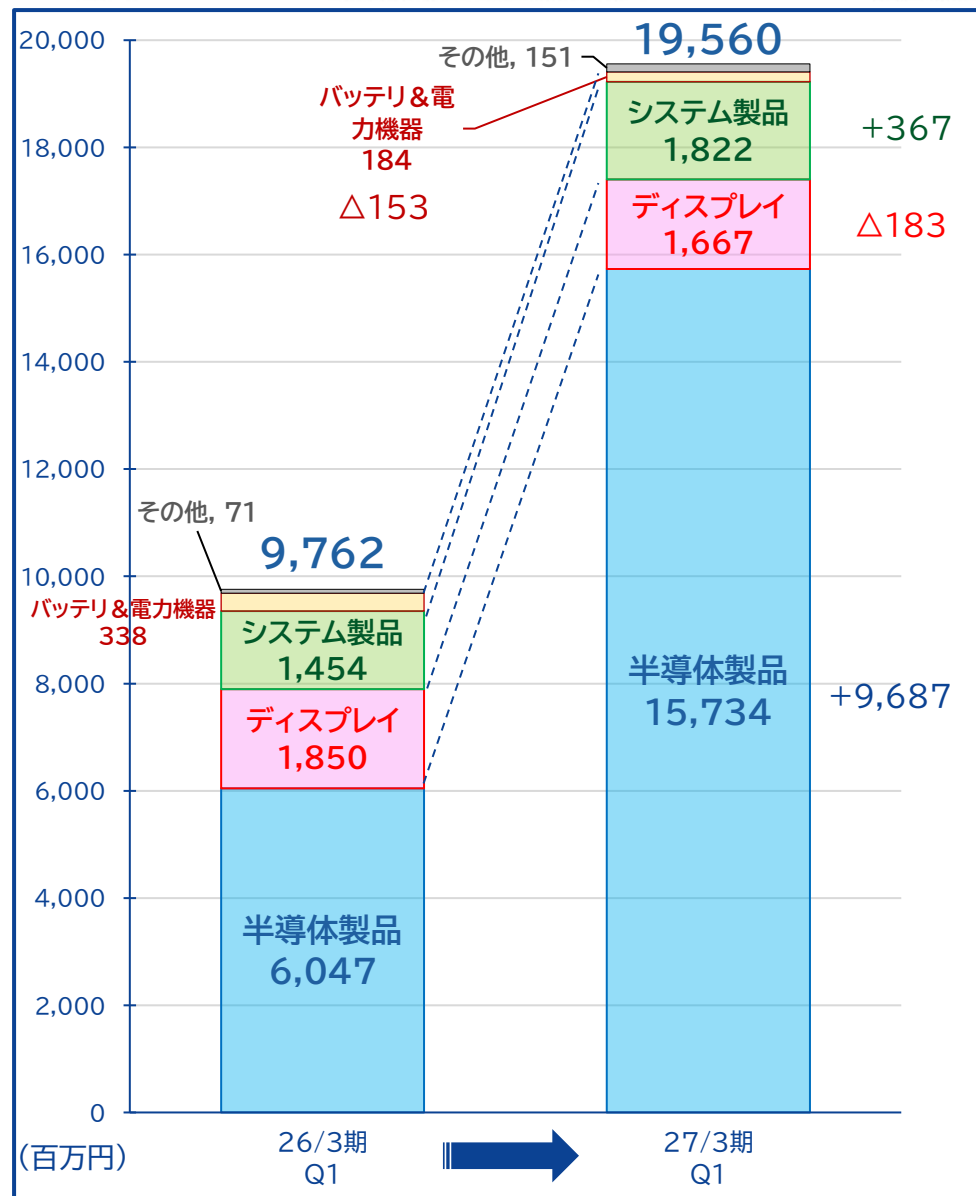
半導体製品分野が業績を牽引する中、システム製品分野も伸長し増収となりました。
利益面では、市況改善による追い風に加え、新規ビジネスの立ち上がりや顧客需要の取り込みが進んだことから売上総利益が拡大し、各利益段階で増益となりました。

金額単位: 百万円	前年度Q1実績 (26年3月期)	当年度Q1実績 (27年3月期)	増減額	前年同期比	コメント
売上高	9,762	19,560	+9,797	2.0倍	半導体製品分野において、メモリー関連商材の価格上昇を背景とした市場環境の改善に加え、新規ビジネスの立ち上がりや顧客需要の取り込みが進み増収。システム製品分野の伸長も寄与し、ディスプレイ分野及びバッテリー＆電力機器分野の減収影響を吸収しました。
営業利益	247	1,239	+992	5.0倍	半導体製品分野を中心とした販売拡大に加え、市況改善、新規ビジネスの立ち上がり及び顧客需要の取り込みにより売上総利益が増加し、営業利益は増益となりました。
経常利益	145	921	+775	6.3倍	売上総利益の拡大を主因として、借入金増加に伴う支払利息の増加や為替差損を吸収し、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回りました。
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	103	635	+531	6.1倍	

2. 四半期毎の業績推移(トレンド)

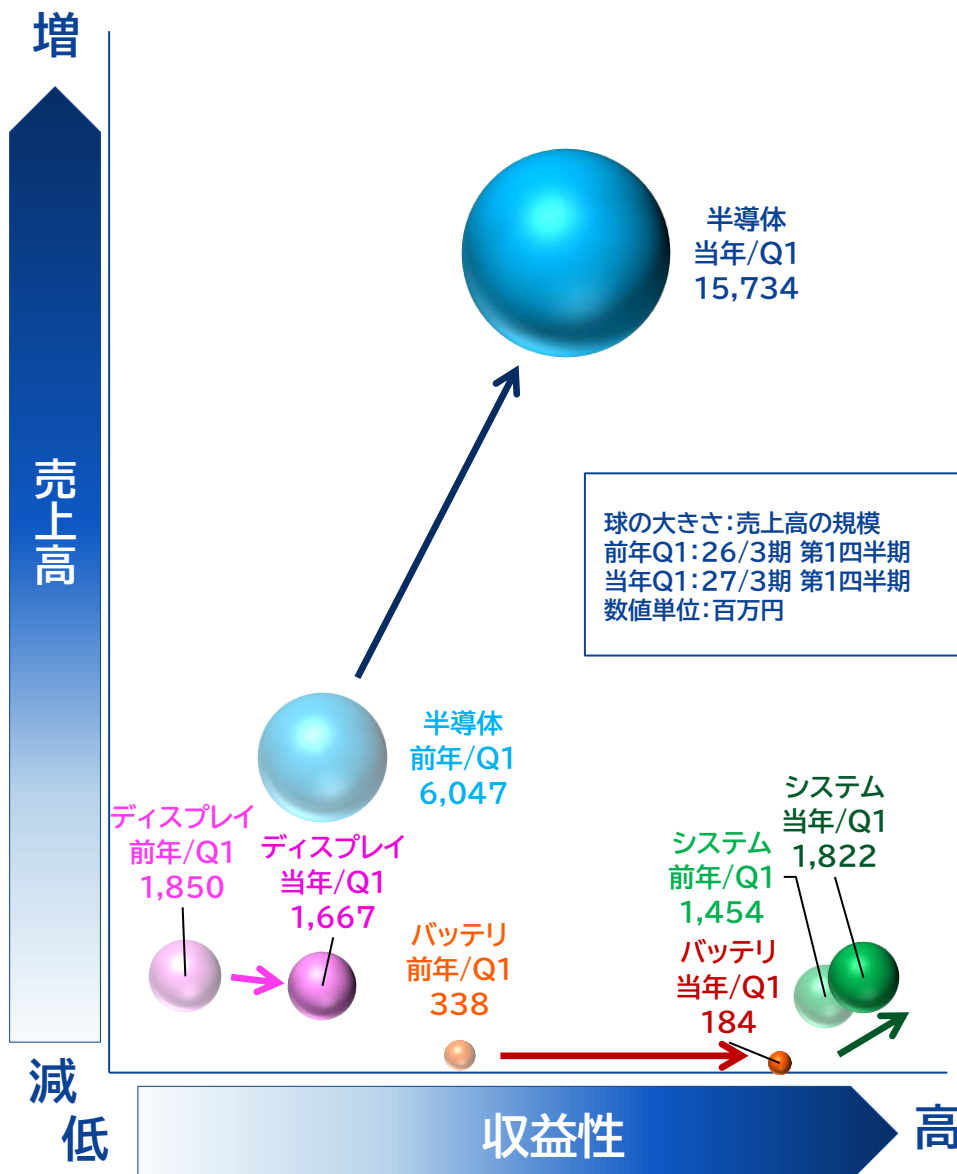


3. 販売状況(分野別売上高:前年同期対比)



主要品目	前年同期比	分野別販売動向(前年同期対比)
半導体製品	2.6倍	メモリー関連商材の価格上昇を背景とした市場環境の改善に加え、新規ビジネスの立ち上がり及び顧客需要の取り込みが進んだことから、大幅な増収となりました。 なお、当該分野の伸長には市況改善による追い風が含まれる一方で、調達機能を活用した製品確保や新規案件の獲得も寄与しており、当第1四半期における業績を牽引しました。 加えて、前期より進めてきた新規ビジネスへの取組みが収益として顕在化し始めております。
ディスプレイ	▲9.9%	PC関連需要の一巡等を背景に、前年同期比では減収となりました。 一方で、一部顧客向け需要には回復の動きも見られており、市場環境については引き続き慎重に見極めてまいります。
システム製品	+25.3%	検査等装置やサーバー関連ビジネスを中心に販売が拡大したことから増収となりました。 複数分野で案件獲得が進んでおり、中期的な収益基盤の強化に向けた取組みが着実に進展しております。
バッテリー&電力機器	▲45.4%	主力であった家庭用ESS向けリチウムイオン電池ビジネスの終息影響により減収となりました。本影響は当初より想定していたものであり、今後は新規案件の創出や成長分野への展開を通じて収益基盤の拡充を図ってまいります。

4. 分野別の現状認識と今後の方向性

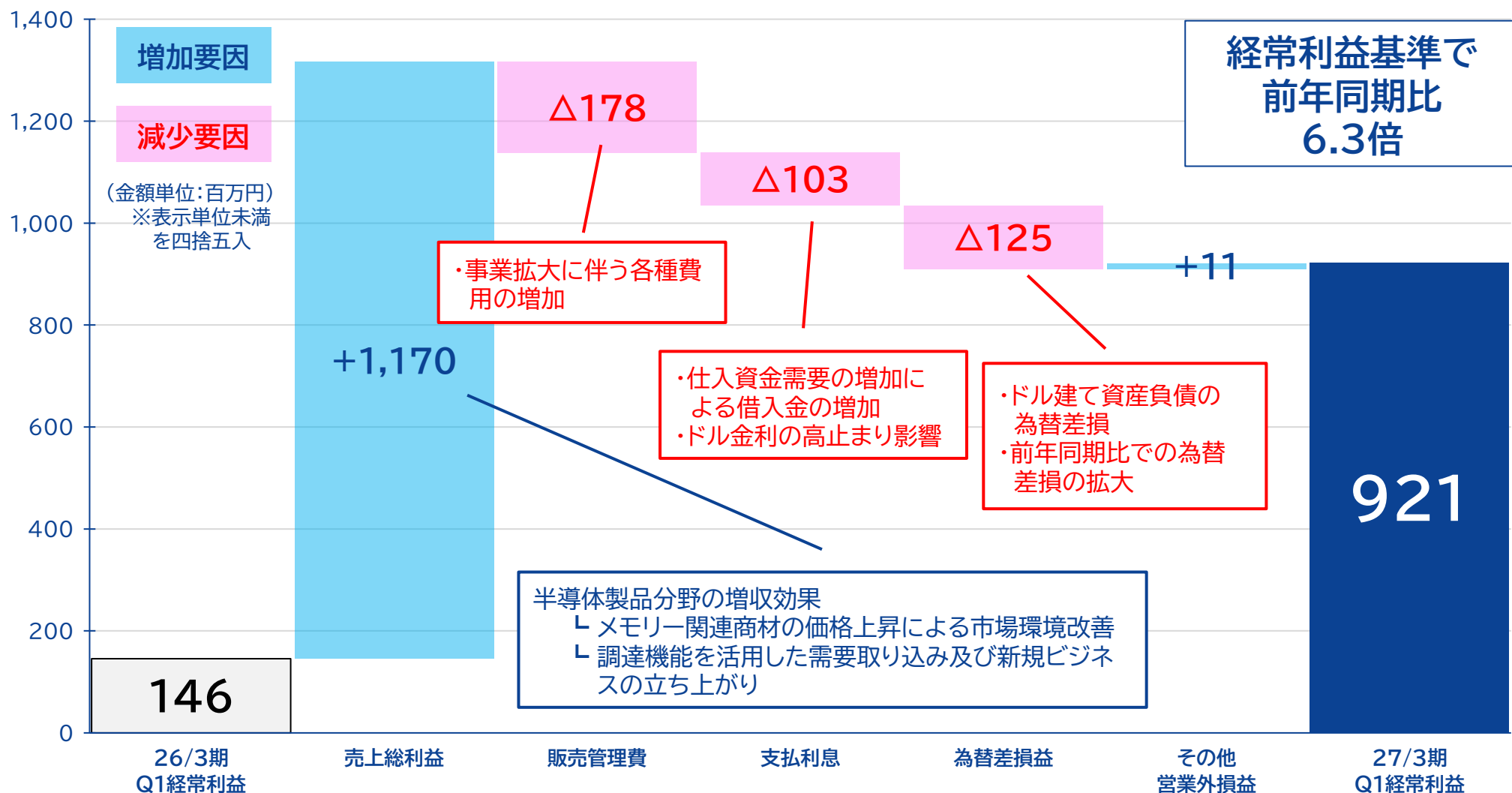


分野	現状認識と今後の方向性
半導体製品	半導体製品分野は、市況変動の影響を受けやすい構造にあります。 その上で、SSD等の新規ビジネスの立ち上がりにより、数量ベースでの事業基盤は着実に拡大しております。 短期的には市況の影響を受けつつも、中期的には新規案件の積み上がりを通じた安定化を図ってまいります。
ディスプレイ	ディスプレイ分野は、足元では回復の動きが見られるものの、PC関連需要の一巡等を背景に、需要環境はなお慎重な局面にあると認識しております。 今後は、市場環境を見極めつつ、用途別需要の取り込みを進めることで、収益基盤の安定化に努めてまいります。
システム製品	システム製品分野は、AIサーバー関連機器や検査等装置、Board製品等を中心に複数領域で案件の拡大が進んでおり、中期的な成長領域として、案件の積み上げが進んでいると認識しております。 特定商材への依存度を低減しつつ、用途および顧客の広がりを伴う事業展開により、中期的な収益基盤の強化を図ってまいります。
バッテリー & 電力機器	バッテリー & 電力機器分野は、主力案件の終息に伴い縮小局面にありますが、これは当初より想定されたものであります。 今後も、成長性のある領域へのシフトおよび新規案件の創出を通じて、分野の再成長に取り組んでまいります。

5. 経常利益の変動要因チャート(Q1)

結論:市況改善と新規ビジネスの進展により大幅増益

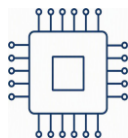
経常利益の増益は、半導体製品分野を中心とした売上総利益の拡大が主因です。市況改善による追い風に加え、新規ビジネスの立ち上がりや顧客需要の取り込みが進み、金融費用や為替影響を吸収して大幅増益となりました。



6. 通期業績予想及び配当予想修正の考え方

Q1は半導体製品分野が業績を牽引し、通期業績予想を上方修正。
一方で、上振れには一時的な市況要因も含まれるため、価格動向・需給動向を慎重に見極め。
業績上振れ分は、株主還元を強化しつつ、運転資金需要および財務基盤の強化にも配慮して配分。

① Q1進捗状況



- ・ 半導体製品分野が業績全体を牽引
- ・ メモリー関連商材の価格上昇及び新規ビジネスの立ち上がりが寄与
- ・ 半導体製品分野を除く各分野は概ね当初想定どおり

② 業績・配当予想の修正判断



- ・ 売上高及び各段階利益が当初計画を上回る見込み
- ・ 通期連結業績予想を修正
- ・ 配当予想は、基準配当135円を維持したうえで、上振れ分の一部を特別配当として還元

③ 留意点



- ・ 上振れには市況要因と新規ビジネス立ち上がりが含まれる
- ・ 持続性は半導体の価格動向・需給動向を慎重に見極め
- ・ 運転資金需要や外貨建て借入金の増加も踏まえ、財務基盤の強化にも配慮

POINT ①半導体が牽引 ②通期予想・配当予想を修正 ③上振れ分を株主還元と財務基盤強化に配分

7. 通期業績予想及び配当予想の修正内容

■ 通期連結業績予想の修正

金額単位: 百万円	前回予想 (2026/5/13)	今回修正予想 (2026/8/10)	増減額	増減率
売上高	50,000	79,000	+29,000	+58.0%
営業利益	1,700	4,000	+2,300	+135.3%
経常利益	1,200	3,000	+1,800	+150.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	850	2,000	+1,150	+135.3%

■ 配当予想の修正

	前回予想 (2026/5/13)	今回修正予想 (2026/8/10)	増減額
年間配当(合計)	135円	235円	+100円
└ 基準配当 ※	└ 135円	└ 135円	±0円
└ 特別配当 ※	└ —	└ 100円	+100円

※基準配当は、当初配当予想に基づく継続的な配当水準であり、特別配当は一時的な業績上振れに対応する配当です。
 今回の上振れ分については、株主還元強化と、運転資金需要および財務基盤強化とのバランスを総合的に考慮し配分しております。

■ 配当予想修正の考え方

一時的な業績上振れを、株主還元と財務基盤強化に配分



本資料お取扱上のご注意



SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

本資料は、シンデン・ハイテックス株式会社(以下、当社)の事業及び業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまっています。

すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

本資料における将来の展望に関する表明は、2026年8月10日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の展望に対する表明、予想に関しては、必ずしも実現することをお約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもあり得ますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ先

シンデン・ハイテックス株式会社
経営企画室

フリーコール:0800-5000-345